

2010

年頭所感

C O N T E N T S

年頭所感..... 1

・新しい時代を創り出す

波瀾 2

・“ふじのくに” づくり元年 川勝 平太

特集 3

2010年に求められる経営の視点

- ・ビジネスデザインの戦略 磯邊 剛彦
- ・なぜ、いま若者は社会起業家をめざすのか 田坂 広志
- ・地球温暖化にポイントをおいた経営 三木 優

TOGETHER TALK 16

・第51回お客さま
心臓外科医 須磨 久善さん

ビジネスリーダー 22

・改正薬事法と医薬品小売業界の動向
松尾 大輔

経済展望 26

・2010年上期の経済見通し 三宅 一弘

インタビュー 30

・六花亭製菓株式会社
代表取締役社長 小田 豊

トレンドの芽は女ゴコロにあり!

..... 34
・第4回 強くなりたい女たち。その本音とは?
石田 美穂

地域フラッシュ 36

- ・静岡 / さあ来い、ハリウッド!!
～沼津市で市民主導のロケ誘致活動～
- ・神奈川 / 「第2のクルーズ元年」へ
～日本籍客船が相次ぎ改装
外国籍客船の横浜港発着も～

Research Eye 38

・静岡県東部地域企業経営動向調査

TOPICS..... 40

・海外研修・研究等助成事業研修報告

研究所だより



財団法人企業経営研究所 理事長

岡野光喜

世界経済は積極的な政策対応を受け、景気後退は終局に向かっている。しかし、その内容は中国やアジア諸国などの新興国においては顕著のものとなっているものの、自国の労働環境や投資相手国の経済不安など足元に不安定さは残っている。金融危機の震源地となった米国や危機の影響が深刻な欧州は、景気は回復しつつも緩やかなものに止まるなど二極分化傾向にある。わが国経済も欧米主要国と同様な動きを示し、企業業績は最悪期を脱しつつあるが、個人消費の底入れは大型景気対策効果に支えられた面が強く、景気回復は自律的なものとはなっていない。

今後の世界経済の発展を考えるにあたって、先進国が牽引役になることは間違いないであろうが、新興国の果たす役割が従来に増してより重要度を高めることを見逃してはいけない。新興国が台頭

してきた背景には、資本力の整備という前提以外に、自国自身が巨大市場となり得ること、技術革新が非連続の世界で起きていることが挙げられよう。言い換えれば、先進国の苦しみは成功体験・ビジネスモデルからの脱却であり、「成長」から「発展」への思考転換である。

奇しくも昨年、日米において政権交代により両国ともに民主党政権になった。米国オバマ大統領はグリーン・ニューディール政策を説き、新しい時代の責任を訴えた。産業においてもより環境の側面を重要視していく時代に突入したのである。われわれが新たな価値観や行動機軸を確立するまでには多くの時間がかかるかも知れないが、自らのオリジナリティを出すような創意工夫を進め、ポジションを再構築していくことが何よりも大切だと考える。まさしく世阿弥に起源を持つと言われる

「守破離（しゅはり）」の思想である。

地域においても同様である。地方分権の進展の有無にかかわらず、地域は今にも増して自立していかなければならないことは自明の理である。先例踏襲という時代は過去のものであり、資源や資産を唯一のものに磨き、宝を創り上げていくためには、われわれ一人ひとりが地域に誇りを持つことが第一歩であり、ゴールへの近道である。グローバル時代の中にあって地域の存在価値を内外に発信することがより求められている時代だからこそである。

弊所も、より良い地域経済社会の実現に向けて努力を積み重ねてまいります。本年も、引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭の挨拶といたします。

新しい時代を創り出す